学年	教科等	主題名及び資料名	日時
第２学年	道徳科	しんせつって　あたたかい（「ぐみの木と小鳥」：日文）	令和４年１月 19 日（水）５校時

子どもの姿からの報告

研究内容１：子どもの思考をつなぐ教材分析と発問構成

親切にされると嬉しくなるけど、親切にするとどうかな？

発問①　なぜ小鳥はぐみをりすに運んだのか？

発問②　嵐を見ながら小鳥は何を考えているのか？

発問③　感謝されたときの小鳥の気持ち

親切にすると自分も嬉しい気持ちになるね。

＜ 発問②について話し合っている子どもたちの会話 ＞

㉓：自分だったら行くよ！
㉟：飛べなくなるかもしれないんだよ。
㉓：でも行くと思う。私だったらあきらめないで行くと思う。
㉟：だってさ、行くって言ってもさ、後から不安がくると思うんだよね。で、行かないって言っても不安になると思う。
㉓：行かないって言ったら、なんかぐみの木がかわいそうじゃん。
㉟：でも、ぐみの木自身は、「嵐がやんでから行ってください。」って言っているんだよ。
㉓：でもなかなか嵐が止みそうにないんだよ。
㉟：だから？
㉓：だから私は、止みそうにないんだったら、明日行ったら、もしかしてりすさんが病気になって死んじゃうかもしれない。何日も見ていないっていうことは、病気にかかっているってことだから…。（話合い終了）

㉓は、りすのことを心配しているぐみの木の気持ちを想像し、ぐみの実を届けるべきだと考えていた。発問①をとおして、登場人物の関係や気持ちを想像することができ、その理解があったからこそ、自分だったらと考える姿にもつながっていったと考える。発問②により、ぐみの実を届けることの難しさや、嵐でも届けようとする小鳥の思いについて深く考えることができ、中心発問③での小鳥やりすたちの気持ちを深く考えることにつながっていったと考える。

内容項目、児童の実態と発達段階、教材の特徴を分析することでねらいが明確になり、発問構成や手立てが立てやすくなった。また、子どもの思考の流れと、ねらいを関連させながら発問を構成することで、子どもが無理なくねらいへと迫っていくことができた。しかし今回、中心発問での時間が短くなってしまった。発問構成を考える際には時間配分も合わせて考えていく必要がある。

研究内容２：新たな価値観を自分自身につなぐための手立て

小鳥役：りすさん大丈夫？食べて元気になってね。
りす役：こんな嵐のなか持ってきてくれて。私はぐみの木さ　んに会えるのを楽しみにしているよ。ありがとう。

教師：今、ありがとうって言われた気持ちはどうですか？
小鳥役：こんなひどい嵐のなか、持ってきて**本当によかったな**と思いました。
教師：どうしてよかったと思ったの？
小鳥役：**ぼくは**、人から「ありがとう」って言われることがとてもうれしいからです。

＜ 役割演技をとおして自分自身につなぐ ＞

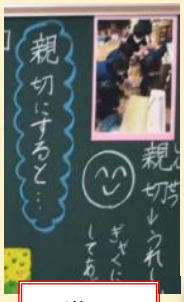
中心となる発問③では、役割演技を行うことで、より登場人物の気持ちを想像したり、共感したりすることができた。また、役割演技後に、教師がインタビューをすることで、その時の気持ちをより詳しく聞き出すことができ、ねらいに迫る発言を引き出すことにつながっていった。

今回、小鳥役の子どもに「どうしてよかったの？」と問い返したところ、「ぼくは人から『ありがとう』って言われることがうれしいからです。」と答えた。この発言から、自分の経験や考え方を基にして小鳥の気持ちを考えていることが改めて分かった。また、この子の発言を聞いた子どもたちも、「自分はどう思うかな？」と自分自身に目を向けるきっかけになると考える。

役割演技やその後のインタビューを行うことによって、親切にすることのよさについて自分事として考えたり、親切にする側、される側の違う立場から価値について考えたりすることにつながったのではないかと考える。

＜ 価値観を自覚する導入と板書の工夫 ＞

授業後半



導入

新たな価値観を自分自身につなぐためには、導入と板書が大切だと考える。導入では、授業前の価値観を自覚し、問いをもたせることを意識した。下の⑤さんのふりかえりのノートを読むと、「親切にしたときの気持ちについては分からなかった」とある。つまり、親切にする側にもよさがあるという親切の価値にまだ気付けていないと考える。このように、親切についての授業前の考えを明確にすることで、ふりかえりの際に自分の価値観の変容に気付くことにつながると考える。また、板書では、ニコニコマークを使って気持ちを表した。授業後半に、小鳥、りす、ぐみの木の気持ちをニコニコマークで視覚的に板書することで、子どもから「三重ニコニコ。」「ニコニコが広がっている。」等の発言が見られた。言葉だけではなく、イラストを効果的に使って板書をすることが大事であると考える。

(⑤さんのふりかえり) はじめは親切にしたときの気持ちは分からなかったけど、授業をしたら、親切にしても嬉しくなることが分かりました。

本時では、役割演技だけでなく、子どもの日常の写真を導入で提示し問題意識を高めようとしたり、終末で子どもの日記を紹介したりすることで、子どもが自分自身につなげて考えられるような手立てをとってきた。このような教師の手立ても当然大事ではあるが、子どもの発言自体がその背景に自分の経験や考え方が反映されていることから、子どもの発言やつぶやきを丁寧に聞き、問い返しや全体に広げていくことも、新たな価値観を自分自身につなぐための重要な教師の手立てであることが分かってきた。